

小型石油タンクの津波対策

— CFRPを用いた あと施工津波対策 —

2011年の東日本大震災において、157基の屋外タンク貯蔵所が津波による被害（移動、漏洩等）を受けました。そのうちの70%が500kL以下のタンクでした

2022年3月に消防庁ガイドラインとして安価で簡易な津波対策工法が発表されました

(株)コアビジョンはCFRPを用いた『津波対策工法1』の第1号機（津波試験向け）を施工しました。

【津波対策工法1とは】

既往のアンカーボルトでの固定は“点”でタンクを拘束しているため、応力集中の懸念があります。対策工法1は、CFRPにより“面”でタンクを拘束することによって、応力集中の軽減を狙うものです。

CFRPを隙間なく施工し、“浮力を発生させない”こと、CFRPの接着力によりタンクを津波時の移動・漂流から守る工法です。

